

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月16日

【評価実施概要】

事業所番号	4271400980		
法人名	社会福祉法人 南有会		
事業所名	グループホーム 望		
所在地	〒859 - 2414 長崎県南島原市南有馬町丁306 - 1 (電話) 0957 - 65 - 6012		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月7日	評価確定日	平成19年11月22日

【情報提供票より】(H19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	6 人	常勤	4 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2		3 名	
要介護3	1 名	要介護4		0 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 86.3 歳	最低	77 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	本多南光堂医院	菅歯科医院
---------	---------	-------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昨年12月に同じ町内に移転し、周辺は畑に囲まれ、すぐ後ろには島原鉄道が通り、馴染み易い静かな風景である。しかし、当時、移転した事で入居者の様子は個々に揺らぎ、職員は計り知れない程の苦労があった。それでも、全職員は一人となり入居者のケアに熱心に努め、入居者が新しい地区に馴染む事が出来る様に、運営推進会議を通じ、様々な意見・要望を求めその結果、地区子供会との夏祭り、バーベキュー、花火等を行い、一緒に過ごす事が出来た。又、地域密着型グループホームを目指し、職員は研修会に参加する等、意欲的であり、心からの日々のケアが入居者にも伝わり、今では大変穏やかな表情が窺われる。家族や友人との関わりも大切にされており、訪問の際には入居者の日頃の様子を細かく伝え、個室を確保することによってプライバシーの配慮を行う等、いつでもゆっくりと家族、友人と過ごす事ができる。又、入居者の希望があればボランティアで美容室から来て頂けるようホーム側からの取り組みを行っている。全職員の前向きな姿勢が窺われる心温かなホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価後、全職員で再度ケアを振り返り改善点については、改善に向けた計画をたてる取り組みが行われた。入居者・家族がホームではどの様に過ごす事が出来る「権利」については、玄関に入った際、目につき易いよう事務所に明示をし、又サービス提供者が守るべき10の「倫理綱領」も一緒に掲示している。服薬支援については薬の変更時、介護記録等で情報伝達をし、平日頃から勉強会を重ね、全職員で知識を深めようと取り組みが行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に向けての努力が窺える。常に入居者の為に色々な課題を検討しながら、前向きに取り組まれている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>平成18年12月、ホームの移転に伴い地区が変わり、改めて認知症について地域に理解して頂く為に運営推進会議においては、具体的取り組み方等についての討議が行われた。その一つに地区子供会との夏祭りの計画をたて、実現する事が出来た。外部からの意見・アドバイスを得る事が出来、ホーム側と地域の方々の熱心な取り組みで運営推進会議が活かされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関に入った所に意見箱を設置している。苦情・相談に関しては、ホーム側窓口を明確にし、直接言い難い場合を考慮した上で、第三者等、外部機関への申立て先も「重要事項説明書」に記し、体制を整え契約時に説明されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>グループホームの役割と理解を求め、地域に開かれたホームとして、地域の方々との交流を深めようと努力されており、運営推進会議においても協力を呼びかけている。避難訓練では、消防署に加え地元の消防団からの協力もあり、逆に地域の行事があればホーム側からも積極的に参加をする取り組みが行われている。地域との連携に全職員が前向きである。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年度ホームの移転により地区が変わり、新たな気持ちで取り組もうと、更にこれまでの理念に付け加え、「地域との交流に努め、自分らしく暮らせる様に地域社会の一員として、のびのびと生活出来る様にお手伝いします。」と地域密着型サービスを目指し、事業所独自の理念が掲げられた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新たな理念を作り上げた事で、管理者・職員は理念に対する意識づけが強化し、職員会議でも話し合いの場を設ける等して、理念の実践に向けて日々取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者が地元の人々と触れ合う事で、地域の一員として役割が持てる様に、地元子供会と夏祭りを行う等(バーベキュー・花火)管理者・職員は積極的に取り組まれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価後、これまでのケアを振り返り、改善点については改善計画シートを作成し、具体的に検討しながら実施に向けて日々努力されている。今回の自己評価についても、全職員で取り組まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム移転後、改めて地域密着型ホームを目指し、運営推進会議では今後の取り組み方について、活発な意見交換の後、子供会との夏祭りが実現している。しかし、議題項目を挙げる事で記入が終わり、その他どのような意見・要望が出されたのか、又項目についての具体的内容・状況・結果の記録がない。		サービスや評価等について実際の取り組みや、その結果報告をより充実にする為には、外部からの意見等の具体的内容を明確に書き記し、その一つ一つの積み重ねから運営推進会議が活かされ、今後より一層、ホームのサービスの質の向上に繋がる事を期待する。

グループホーム 望

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催のお祭りがあれば、入居者と一緒に出掛け、楽しい時間を共に過ごされている。しかし、現段階では、2ヶ月に1度の運営推進会議以外には行き来する関係が築けているとは言い難い。		ホームでの行事、「誕生会」「敬老会」等、少しずつ計画されることが望まれる。行政機関にグループホームとはどのような所なのか知って頂き、今抱えている課題等の理解・協力を求めこれからのケア・サービスの質の向上に繋がる事を期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の支払いは、現金払いの形をとり、その際必ず入居者の状況報告・介護計画について話し合いの場を持つ様にしている。金銭管理については、出納帳に家族確認(記名・捺印)をして確実に報告が行われている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関を入った所に意見箱を設置し、いつでも苦情・相談を気軽に伝えられる様にしている。実際に意見・要望があれば話し合いを行い、検討しながらケアに反映される様努めている。又、ホーム側だけに無く、第三者窓口を設置して、直接言い難い場合は外部へも相談する事が出来る事を、事務所に掲示をし、伝えている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動・退職に伴い、新しく職員が代わった場合、入居者のダメージを防ぐ為に、馴染みの職員でカバーし合い、今迄の雰囲気や崩さない様努力し、早く馴染む事が出来る様に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の事業所の学習会・研修会へ積極的に参加をしている。月一度ケア会議の際や別に時間を設け、報告会を兼ねて職員全員で勉強会を行っている。しかし、報告書が研修の中の学習項目や議題の記録にとどまり、具体的にどの様な研修内容の物なのか、又受講によってのプラスの面等、結果記録が十分ではない。		サービスの質の向上を目指す為に、研修に参加出来なかった職員への報告、あるいは報告会に出席出来なかった職員に研修の内容を確実に伝える為には、記録内容の充実が望まれる。後で内容を振り返った時、次の実践へ繋がる事に期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア研究会の交流会等に参加をして、同業者と平日頃から情報交換をし、サービスの質の向上を目指す取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望の場合、ホームに見学して貰い納得をした上でのサービス利用である。馴染むのに時間がかかって帰宅願望が強い場合、実際に職員と一緒に自宅まで同行する等工夫し、本人の想いを真っすぐに受け止め徐々に馴染める様、職員は家族と相談しながら熱心に取り組まれている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>生活して行く中で、入居者が得意な物を活かせる場面作りの工夫をしている。調理の際は、味付け・饅頭作り等、入居者と共に昔を想いだし、支え合う関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の嗜好調査を2ヶ月に1度行い、いつでも全職員が確認出来る様個別に記録に残している。一人ひとりの思いを大切に、ケアに活かせる様な取り組みに努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者・家族の意見を取り入れながら、介護計画を作成している。個別の介護の日誌記録には、計画のキーワードを ~ に書き記し、本人の目標を常に知る事が出来、計画に沿った介護記録となる様、取り組まれている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月1回介護計画の評価をし、基準項目を4段階に現している。更に3ヶ月経った時、再度、介護計画を総合的に見直しを行い、次の計画に繋がる様取り組みをされている。</p>		

グループホーム 望

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・入院の際には、ホーム側も付き添いを行っている。その他、墓参りも一緒に行き、色々な要望に応じ柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望を大切に、かかりつけの医療機関を利用出来る様、尊重している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに事例は無いが、終末期に対する指針を定めており、万が一に備え契約時に説明をし家族の同意を得ている。24時間対応可能な協力の医療機関があり、常に家族と十分に話し合いをしながら支援できる様、体制を整えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	まずは、挨拶を大切に、ホーム内の勉強会やミーティングの際にも全職員が意識を高める様プライバシーの確保に徹底している。別に個室の確保も出来ており入居者の家族・友人が訪問された時、いつでも利用出来る様、配慮されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先する事なく、入居者のその日の体調に配慮して、問いかけながら無理する事のない様、気持ちを確かめ、柔軟な支援を行っている。		

グループホーム 望

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と同じ物を一緒に食べ、食事の準備・後片付けも共にし、食事を楽しむ事が出来る様工夫されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴出来る様に取り組まれている。入居者の入浴が職員の見守りで可能な場合は、出来るだけ夜間帯に入浴出来る様努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事や洗濯・畑での野菜作りに関する事・裁縫等、入居者の個性を大切に特技を活かせる様支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームでの飲料水は、同じ南島原市にある新鮮な湧き水を使用しており、入居者の方も一緒に水汲みに出掛けている。その他、買い物・ドライブと日常的に外出支援が行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵をかける事はなく、入居者のその日の状態を、職員は細かくキャッチする様努めている。万が一入居者が外出しようとした場合、止めるのではなく一緒について行く等して、声掛けをし見守り、安全面にも配慮しながら、自由な暮らしの支援が実践されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署と地元消防団に協力を呼びかけ、火災を想定した避難訓練を行い、その他に1回ホーム独自でも避難訓練を行っている。避難場所も2ヶ所考えられており、居室の窓も大きな引き戸になっているので万が一、非常口がふさがった場合でも、あらゆる居室の窓から避難出来る様訓練で身につけている。		

グループホーム 望

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量は、一人ひとりチェックされており、1日の水分摂取量を個別に記録している。献立は併設施設の栄養士によるチェックが行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には手作りのカレンダーが飾られており、台所や食堂にも生活感があり違和感がない。畳の居間には、大きなソファが置かれ、テーブルを囲んでテレビを見たりして、和やかな雰囲気過ごせる様工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台・昔馴染みのテーブルやタンス等、入居者が使い慣れた物をそれぞれ持ち込まれており、個性的な居室が窺えた。居心地の良い居室作りの工夫がなされていた。		